

平成24年度採択プログラム 事後評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	名古屋大学	整理番号	G02
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) まつお せいいち 氏名・職名 松尾 清一 (名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) まえしま まさよし 氏名・職名 前島 正義 (名古屋大学副総長/生命農学研究科・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) すぎやま なおし 氏名・職名 杉山 直 (名古屋大学理学研究科長/素粒子宇宙物理学専攻 教授)		
4. 類型	G <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	PhDプロフェッショナル登龍門	
	英語名称	PhD Professional: Gateway to Success in Frontier Asia	
	副題	フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成	
6. 授与する博士 学位分野・名称	文学、歴史学、教育学、教育、心理学、法学、比較法学、現代法学、経済学、理学、医学、看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学、工学、農学、国際開発学、情報学、学術、数理学、環境学、建築学、社会学、地理学、創薬科学		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	人文学研究科、教育発達科学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学系研究科、工学研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、多元数理科学研究科、環境学研究科、情報学研究科、創薬科学研究科に係る分科が対象		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	人文学研究科人文学専攻、教育発達科学研究科全専攻、法学研究科総合法政専攻、経済学研究科全専攻、理学研究科全専攻、医学系研究科全専攻、工学研究科全専攻、生命農学研究科全専攻、国際開発研究科国際開発協力専攻、多元数理科学研究科多元数理科学専攻、環境学研究科全専攻、情報学研究科全専攻、創薬科学研究科基盤創薬学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	慶應大学法学部、名城大学、東海テレビ放送(株)、トヨタ自動車(株)、中部電力(株)中日新聞社、日本ガイシ(株)、(株)大垣共立銀行、(株)東海メディカルロダクツ、日本アイ・ビー・エム(株)、愛知県、名古屋市、三菱ふそうトラック・バス(株)		

14. プログラム担当者の構成 計 46 名					
外国人の人数	1 人	[ 2.2 %]	女性の人数	3 人	[ 6.5 %]
プログラム実施大学に属する者の割合	[ 63.0 %]				
プログラム実施大学に属する者	29 人		プログラム実施大学以外に属する者	17 人	
そのうち、他大学等を経験したことのある者	25 人		そのうち、大学等以外に属する者	15 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
(プログラム責任者) 前島 正義	マエシマ マサヨシ		副総長 生命農学研究科・教授	生化学、植物生理学・博士(農学)	プログラム全体の進行に関わる統括、研究科間の総合調整
(プログラムコーディネーター) 杉山 直	スギヤマ ナオシ		理学研究科長・教授	宇宙物理・博士(理学)	プログラム全体の実施に関する統括、企画委員会委員長
篠原 久典	シノハラ ヒサノリ		高等研究院・院長	ナノ物質科学・博士(理学)	教育推進室室員：ナノ物質科学の観点によるグローバル・リテラシー教育の開発
飯島 澄男	イジマ スミオ		高等研究院・特別招聘教授	材料科学、電子顕微鏡学・博士(理学)	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
佐久間 淳一	サクマ ジュンイチ		人文学研究科・教授	言語学・修士(文学)	教育推進室室員：「日本文化論」に関わる教育課程の編成と授業の実施の統括
釘貫 亨	クギヌキ トオル		人文学研究科・教授	日本語学、日本語学説史・博士(文学)	教育推進室室員：日本文化に対する教育のコーディネーター担当
金銅 誠之	コンドウ シゲユキ		多元数理科学研究科・教授	数学・博士(理学)	学生評価室室員：学生の本プログラムにおける活動実績の評価担当
近藤 孝男	コンドウ タカオ		理学研究科・名誉教授	時間生物学・博士(理学)	プログラム実施に係る運営組織の統括
西澤 淳	ニシザワ アツシ		高等研究院・特任講師	観測的宇宙論、天文学・博士(理学)	教育推進室室員：学際的な教育環境の構築、授業・コースワークの内容の助言と策定、およびカリキュラム・学年暦のアレンジ
杉浦 昌弘	スギウラ マサヒロ		遺伝子実験施設・特別教授	分子生物学・博士(理学)	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
根本 二郎	ネモト ジロウ		経済学研究科・教授	計量経済学・博士(経済学)	教育推進室室長：プログラムのカリキュラム編成全体の統括、企画委員会委員
長谷川 好規	ハセガワ ヨシノリ		医学系研究科・教授	内科学、呼吸器病学・博士(医学)	リクルート・キャリア支援室室長：リクルート、学生のキャリア支援全体の統括、企画委員会委員

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
藤巻 朗	フジマキ アキラ		副総長 工学研究科・教授	電子工学・博士(工学)	社会連携室室長：学外プログラム参加企業・官公庁等との調整、企画委員会委員
益川 敏英	マスカワ トシヒデ		素粒子宇宙起源研究機構・名誉教授	素粒子物理学・博士(理学)	企画委員会顧問：グローバルな観点からプログラムの評価・改善を担当
宮田 卓樹	ミヤタ タカキ		医学系研究科・教授	細胞生物学、神経発生生物学・博士(医学)	教育推進室室員：異分野理解力醸成に向けたカリキュラム開発担当
渡邊 誠一郎	ワタナベ セイイチロウ		環境学研究科・教授	惑星科学・博士(理学)	教育推進室室員：コースワークアレンジの担当
松中 学	マツナカ マナブ		法学研究科・准教授	商法・会社法・修士(法学)	国際連携室室長：国際連携を統括すると共に、主にフロンティア・アジアを担当
石橋 和紀	イシバシ カズノリ		理学研究科・講師	宇宙物理学・博士(理学)	国際連携室室員：海外リトリート等実施の支援と留学生リクルート担当
高橋 裕平	タカハシ ユウヘイ		博物館・特任教授	地質学・博士(理学)	国際連携室室員：海外リトリート等、および国際的インターンシップ等の実施支援担当
田代 寛之	タシロ ヒロユキ		PhD登龍門推進室・特任講師	宇宙物理学・博士(理学)	プログラムコーディネーター補佐、広報担当
田中 瑛津子	タナカ エツコ		PhD登龍門推進室・特任助教	教育心理学・修士(教育)	学生評価室室員：プログラムの質保証と学生の達成度評価担当
野口 道代	ノグチ ミチヨ		PhD登龍門推進室・特任講師	会計学・修士(経済学)	リクルート・キャリア支援室室員：学生のキャリア支援と国際的インターンシップ等支援
田畑 亮	タバタ リョウ		PhD登龍門推進室・特任助教	植物分子生物学・博士(農学)	ヤングメンターとりまとめ担当
植田 健男 (H30.4.1追加)	ウエダ タケオ		教育発達科学研究科長・教授	教育経営学・博士	学生評価室室員：学生の活動実績指標の開発と評価担当
村瀬 洋 (H30.4.1追加)	ムラセ ヒロシ		情報学研究科長・教授	知能システム学・博士	社会連携室室員：広報戦略を主に担当
河内 美樹 (H30.4.1追加)	カワチ ミキ		高等研究院・特任講師	植物性理学、亜鉛生物学	リクルート・キャリア支援室室員：フロンティア・アジアを中心に留学生リクルートを担当
土川 覚 (H30.4.1追加)	ツチカワ サトル		生命農学研究科・教授	生物システム工学・博士(農学)	学生評価室室長：本プログラムにおける学生評価全体の統括、企画委員会委員
山形 英郎 (H30.4.1追加)	ヤマガタ ヒデオ		国際開発研究科長・教授	国際法学・修士(国際法学)	国際連携室室員：国際的インターンシップ実施の支援

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
芳賀 克彦 (H29.4.1追加)	ハガ カツヒコ		PhD登龍門推進室・特任教授	国際開発学・修士(文)	教育推進室室員:授業・コースワークの内容の助言と策定、およびカリキュラム編成担当
(その他の大学)					
大屋 雄裕	オオヤ タケヒロ		慶應大学法学部・教授	法哲学・学士(法学)	国際連携室室長:国際連携を統括すると共に、主にフロンティア・アジアを担当
福田 敏男	フクダ トシオ		名城大学理工学部・教授	ロボット工学、ヒューマンインタフェース・博士(工学)	教育推進室室員:ものづくりを中心とする総合的教育カリキュラムの開発
浅野 碩也	アサノ セキヤ		東海テレビ放送(株)・相談役	放送メディア・学士(法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
吉田 守孝	ヨシダ モリタカ		トヨタ自動車(株)・副社長	自動車工学・学士(工学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
川口 文夫	カワグチ フミオ		中部電力(株)・顧問	経営・学士(商学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
小出 宣昭	コイデ ノブアキ		中日新聞社・顧問・主筆	報道・学士(政治学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
齋藤 明彦	サイトウ アキヒコ		トヨタ自動車(株)・特別顧問	自動車工学・博士(工学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
柴田 昌治	シバタ マサハル		日本ガイシ(株)・特別顧問	経営・経済産業政策、名誉博士	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
土屋 嶮	ツチヤ タカシ		(株)大垣共立銀行・取締役頭取	金融・学士(法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
筒井 宣政	ツツイ ノブマサ		(株)東海メディカルプロダクツ・会長	経営・学士(経済学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
橋本 孝之	ハシモト タカユキ		日本アイ・ビー・エム(株)・名誉相談役	経営・学士(工学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
大村 秀章	オオムラ ヒデアキ		愛知県・知事	地方行政・学士(法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
河村 たかし	カワムラ タカシ		名古屋市・市長	地方行政・学士(商学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度
アルタントヤージクジドスレン	アルタントヤージクジドスレン		元モンゴル国保健省事務次官	国際保健行政・MMA(保健行政修士)	国際連携室室員:フロンティア・アジアとの連携、留学生リクルート担当
城所 卓雄	キドコロ タクオ		元駐モンゴル日本国特命全権大使	国際関係分野・文学士、名誉博士(経済学)、名誉博士(外交学)	国際連携室室員:フロンティア・アジアとの連携、留学生リクルート担当
房村 精一	フサムラ セイイチ		元名古屋高等裁判所長官	民事法・学士(法学)	コースワーク、インターンシップ支援
松永 和夫	マツナガ カズオ		客員教授 三菱ふそうトラック・バス(株)取締役副会長	経済産業施策・学士(法学)	コースワーク、社会人メンター制度、インターンシップ制度

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 *(今後の募集予定: 有無)	
プログラム募集定員数	-	20	20	20	20	20	10	
① 応募 学生 数	-	39	26	31	29	27	14	
	うち留学生数	-	19	11	21	20	14	
	うち自大学出身者数	- (-)	11 (2)	6 (1)	6 (2)	4 (0)	7 (1)	5 (0)
	うち他大学出身者数	- (-)	28 (17)	20 (10)	25 (19)	25 (20)	20 (13)	9 (8)
	うち社会人学生数	- (-)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	うち女性数	- (-)	14 (7)	12 (7)	16 (13)	14 (10)	9 (7)	7 (5)
② 合格 者数	-	26	19	22	15	14	7	
	うち留学生数	-	10	8	14	8	6	2
	うち自大学出身者数	- (-)	11 (2)	6 (1)	6 (2)	3 (0)	7 (1)	4 (0)
	うち他大学出身者数	- (-)	15 (8)	13 (7)	16 (12)	12 (8)	7 (5)	3 (2)
	うち社会人学生数	- (-)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	うち女性数	- (-)	8 (4)	8 (5)	12 (9)	5 (2)	4 (3)	3 (1)
③ ②の うち 履修 生数	-	22	18	21	15	13		
	うち留学生数	-	10	7	14	8	6	-
	うち自大学出身者数	- (-)	8 (2)	6 (1)	6 (2)	3 (0)	7 (2)	- (-)
	うち他大学出身者数	- (-)	14 (8)	12 (6)	15 (12)	12 (8)	6 (4)	- (-)
	うち社会人学生数	- (-)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	- (-)
	うち女性数	- (-)	8 (4)	7 (4)	12 (9)	5 (2)	4 (3)	- (-)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	-	1.50倍	1.37倍	1.41倍	1.93倍	1.93倍	2.00倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	-	130%	95%	110%	75%	70%	70%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成30年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成30年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。





## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

**【概要】**本プログラムでは、博士号を持ち、企業（起業を含む）・官公庁・マスコミ・政治・司法・国際機関・NPOなど、社会のあらゆる分野においてリーダーとして実践的に活躍する職業人、すなわち PhD プロフェSSIONALを養成する。まず、名古屋大学の持つ高い研究力に支えられた高度な専門性は、各部局と密接に連携し、コアとして獲得させる。その上で、さまざまな分野・背景の人々と協働して創造的な成果を生み出すために必要な能力をコアに対するスポークと位置付け、ディベート力・自己表現力、コミュニケーション・マネジメント能力、国際性と異文化・異分野理解力、自律的提案・解決能力などのスポークを本プログラムにより獲得することを通じて、コアである優れた学識が社会の中で真に発揮され得るようにする。スポーク能力をも身に付け得る資質は、プログラム参加時の選考により保証する。また本プログラムでは、日本の新たな成長戦略としてのものづくり再生の鍵となる東南・南・中央アジアの諸国をフロンティア・アジアと位置づけ、高度な専門力と活動能力を発揮してそれらの地域で活躍しうる人材を日本人・対象国からの留学生の双方において養成する。

**組織：**本プログラムは独立した運営支援組織として構築し、総長の強力なリーダーシップのもと、部局横断的なマネジメントを実現する。また、本学を代表する研究者、高等研究院フェローであるノーベル賞・文化勲章の受章者ら学術のトップリーダーと、企業・官公庁・マスコミなどのトップリーダーがプログラム担当者として企画段階から参加している。

**学位：**本籍専攻が博士号を授与する一方、本プログラムは最優秀・優秀・優良の三段階評価に基づくディプロマを発行する。

**プログラム：**確固たるスポーク能力を獲得するために、本学位プログラムでは次の施策を展開する。

(1)コースワーク：高等研究院フェローや各界トップリーダーによるディスカッション・セッションとロールモデルとしての成功体験講演。他に、文化論、グローバル・リテラシー、コミュニケーションスキル、キャリア形成論などを開講。(2)キャリア創成プロジェクト「登龍門」：学生のプロジェクト提案に基づき、自律的な問題発見・課題想定・解決提案までのプロセスを、企業・官公庁・マスコミ等へのインターンシップなどにより実践。(3)ヤングメンター：各学生に対し、異なる分野に属する若手特任教員をメンターとして配置、異分野に通じるコミュニケーション能力を養成。(4)社会人メンター：企業・官公庁・NPO などから派遣されたメンターを各学生に配置し、多様な人材との共同実践やキャリア意識の強化養成。(5)国際性の獲得：フロンティア・アジアを中心に実施する初年次海外研修に加え、2回参加を義務づける10日程度の海外研修、また登龍門による1ヶ月程度の在外研修を経験。本学ノースカロライナ州国際産学連携拠点（NU Tech）において同州立大学と連携、起業家精神を学ぶことを通じ、キャリアパスを明確化させるための合宿講義（アンビションキャンプ）を実施。

**評価・質保証：**ポイントシステムを導入し、メンターからの指導・コースワーク・「登龍門」への参加などプログラムの活動への参加と達成度を評価・数値化して把握する。一定のポイントを獲得することを、博士後期課程以降の本プログラムへの継続参加およびプログラム修了の要件とする。英語についても IELTS、TOEFL の一定スコアを継続要件とする。年度末には成果報告会を開催し、さらに評価に応じプログラム参加1年次学生を対象に「優秀学生表彰」を授与する。

**【特色】**①高度な専門性をコアとして担保しつつ、本プログラムによって、社会のあらゆる場面に柔軟に対応できるようになるスポーク能力を獲得すること。②学術・企業・官公庁・マスコミなどのトップリーダーが直接プログラムに参加すること。特に実社会の各セクターとの連携を強く意識し、社会人メンターの配置や「登龍門」によるインターンシップなどを行なうこと。③名古屋大学がこれまで築いて来た実績に基づいて、フロンティア・アジアと連携してリーダーとなる人材を育成すること。

**【優位性】**ノーベル賞をはじめとする高い学術研究の成果、Young Leaders Cultivation と名付けた若手特任教員の採用プログラム(高等研究院)、グローバル COE・大学院 GP・グローバル 30 といった教育研究・国際化に資する大型競争的経費の獲得とその運用、法整備支援・人材育成（政府高官を含む）などを中心としたフロンティア・アジアでの実績、本学の知的財産を紹介する目的でノースカロライナ州に展開する NU Tech、博士号取得者を含むキャリアパス支援のための B-Jin（社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター）など、名古屋大学がこれまでに築き上げてきた実績に基づき、その統合と体系化を通じて新たに構築される学位プログラムであることから、優位性は明らかである。



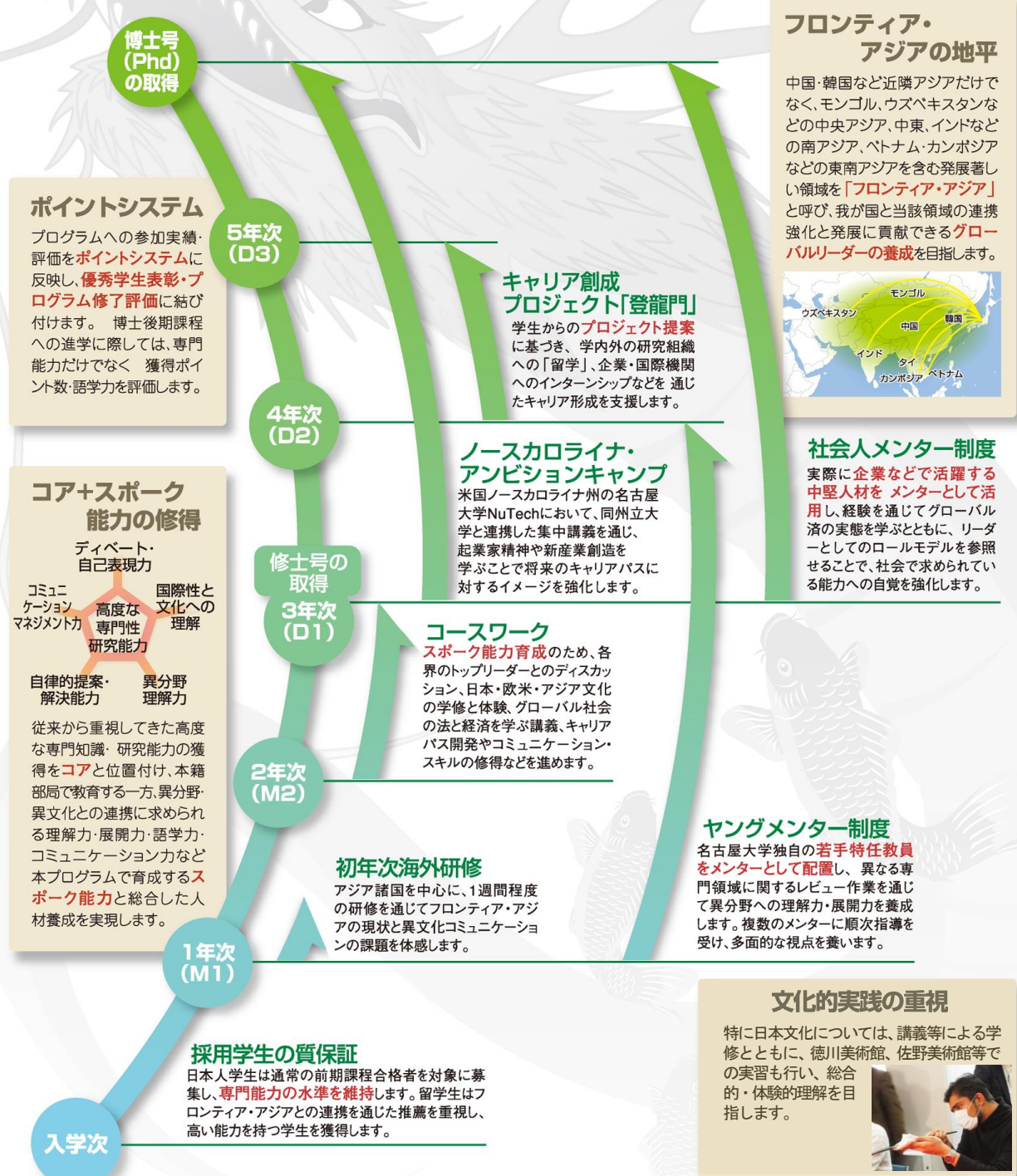
プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

# PhDプロフェッショナル登龍門

## フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成

学術分野で活躍するプロフェッサーではなく、高度な専門的知識・研究能力に支えられた多様性を実現することで、社会で実践的に活躍するプロフェッショナルを養成します。異分野・異文化への理解をもとにフロンティア・アジアと連携し、日本の新たな成長戦略を牽引することのできるリーダーを養成するため、健全な批判精神と責任ある発言力・行動力の獲得を目指します。



## プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

**【体系的教育プログラムの整備】**高い専門性(コア能力)に加えて、PhD プロフェッショナルとして必要な5つのスポーク能力、「自律的提案・解決能力」「コミュニケーション・マネジメント力」「国際性と文化への理解」「異分野理解力」「ディベート・自己表現力」を養成するため、次の一貫した学位プログラムを構築した。1、2年次では、産官学政各界のトップリーダーによるトップリーダー・ディスカッションセッション、フロンティア・アジア地域(モンゴル・ラオスなどで実施)での約10日の初年次研修、フロンティア・アジア地域および英国の2カ所で行う海外リトリート、若手研究者の指導の下で異分野研究を体験するヤングメンター、ブリティッシュ・カウンシルの協力を得て行う実践的英語研修、および日本文化体験講座と各種講義(知財戦略、文化論など)を配置し、スポーク能力の基礎固めを行う。3年次では、ノースカロライナ州立大学の協力の下、3週間にわたるノースカロライナ・アンビションキャンプ(NC キャンプ)を実施し、起業家精神、創造性、国際性などリーダーに必須の能力の練成を図る。同時に、国内において、多数(約10社・機関)の企業・機関の協力により若手、中堅レベルの社会人をメンターとして迎え、就業マインドの強化と実社会最前線の課題解決について実体験を通じて学ぶ社会人メンターを実施する。4、5年次では社会人メンターを継続するとともに、履修生各人が自ら提案し実行するキャリア創生プロジェクト「登龍門」を実施して、スポーク能力の創造的応用を実践する。

**【スポーク能力の向上】**キャリア創生プロジェクト「登龍門」までを終えた学生を、その入校時と比較すると、スポーク能力の伸びは驚くべきものがある。なかでも、分かりやすい指標で測定できるのは、英語力である。国際的に活躍する将来のトップリーダーに必須の要件として、プログラムでは具体的にTOEFL iBT90点相当(IELTSでは6.5)を2年修了時の継続の条件としている。これは特に日本人学生にとって相当厳しいハードルであり、入校時にはほとんどの日本人学生はこの要件を満たしていない。しかし、ブリティッシュカウンシルと提携した英語研修(週6時間、20週)、さらには、現地学生を交えた海外研修におけるグループワークなどを通じ、学生の英語力は目覚ましい向上を見る。具体的事例として、1年で、IELTSのスコアが4.5の者が6.5に、4.0が6.0にアップするなど、特に低スコアの学生が目覚ましい向上をみせ、平均でも0.5以上の上昇がみられる。プログラムでは、英語力以外のスポーク能力についても、Rubricで積み上げる評価方法により可視化をはかることに成功し、相応に伸びていくことを確認している。

登龍門での学びをもとに自主的活動で成果を出した例もある。一期生3名は、ユニリーバ・ジャパンが主催するビジネスコンテストUFL 2017日本大会決勝に勝ち進み、SNSを活用したメンズコスメブランドのPR企画を提案した。その結果、プレゼンの質の高さが評価されBest Presenter Awardを受賞した。三期生3名は、NCキャンプを通じて発案したスナック菓子にウェットティッシュを付属させるユニークなパッケージングを、実用新案登録に結実させた。四期生2名は、留学生と日本人学生の交流を深めるオンラインサービスを提案し、東京工業大学主催の第3回ビジネス構想コンペティションファイナリストに選出された。また、四期生1名は英語のディベート北東アジア大会で準優勝を勝ち取り、平成29年度の名古屋大学総長顕彰を受けている。

**【就職キャリアパスの実績】**本プログラムは、平成30年3月に最初の修了者を輩出した。プログラムが要求するPPを満たし、キャリア創生プロジェクト「登龍門」を終え、最終報告会での審査を経た学生11名について、ディプロマを授与した(うち博士号取得は7名、残りは1年以内に取得することを約束)。修了生の進路は、4名が民間企業就職、1名が大学職員、1名が両親の会社を継ぎ、2名が大学教員、2名が大学の特任助教・研究員、1名が国立研究開発法人の研究員である。従来、本学においては、博士号取得者のほぼ6割が教員、博士研究員などアカデミアに残ることと比較して、55%がアカデミア以外に職を求めたことは本プログラムの成果といえる。実際に、民間企業のうち3名はIT・ものづくり系の企業(シスコシステムズ、日立製作所、富士ソフト)であり、シスコシステムズへ就職した学生は、「登龍門における経験は、私の将来のキャリアに大変大きな影響を与え、卒業後はネットワーク通信機器を扱う会社で働くことを決断した」と述べている。富士ソフトに就職した学生は、文学研究科で英米文学を専攻した留学生であり、研究職ではなく、全くの畑違いともいえるソフト開発の会社に志望した理由は、社会人メンターや登龍門教員によるキャリア面談による影響が大きかったとのことである。また経済学研究科で博士号を取得して国立研究開発法人の研究員となったものは、専門とは異なるデータサイエンスの分野での採用であり、将来の起業のために、一層の高みを目指す従来型とは大きく異なった社会科学系博士人材である。

## プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

**【改革推進のための組織編成】**本プログラムは、総長の強力なリーダーシップの下、法科大学院を除く名古屋大学の全大学院研究科・専攻をあげて実施している。さらに、大学全体の大学院改革の司令塔として本学で採択された6リーディングプログラムを統括する「リーディング大学院推進機構」を設置してきた。推進機構では、担当副総長が招集する運営委員会に加えて情報共有や日常業務を検討するための機構本部会議などを開催し、6リーディングプログラムの共通講義やシンポジウムを実施している。

さらに、大学全体として、本プログラム、およびこれら本学リーディングプログラムの補助期間終了後を見据えて、博士課程教育推進機構を平成29年10月に設置した。これは、名古屋大学が平成30年3月に指定国立大学に指定されたこととも大きく関係している。指定国立大学への取り組みとして、本学が7つの柱のうちの1つとして、特に取り上げたのが「卓越した博士人材の育成」である。そこでは、博士課程教育リーディングプログラムの経験と成果を活かして、博士課程教育推進機構を設置することが謳われている。機構での活動の中核をなすものの一つとして、本プログラムによって名古屋大学に初めて移植されたトランスファラブル・スキル教育が挙げられていることなど、そこでは本プログラムの取り組みがレガシーとして随所に組み込まれることとなっている。例えば、国際的な発信力を裏付けるための実践的英語教育、グループワークに基づいて学生の自主的発想を育む海外研修、社会とつながる力を養成する社会人メンターやトップリーダーセッションなどがあげられる。これら本プログラムが培ってきた経験は、新たな機構を通じて名古屋大学の博士教育を改革する基盤となる。

また、本学では平成26年度採択のスーパーグローバル大学創成支援プログラム(TGU)を中心に教育・研究の国際化を実施しているところであるが、そこでは社会との連携、フロンティア・アジアを主な対象としたアジアサテライトキャンパス学院の設置など、本プログラムの事例を発展させる取組が進められている。

**【学外との連携・ネットワーキング】**(1)**トップリーダーと社会人メンター**：トップリーダーとして参画している方や、社会人メンターを務めていただいている方を通じて、本プログラムは社会とつながっている。プログラムの効果を直接的に認識したこれらトップリーダー・社会人メンターは、博士人材活用への理解が格段に深まり、彼ら・彼女らを通じて、結果として博士号取得者がリーダーとして活躍できる場が拡大してきた。実際に数社の企業からは直接マッチングの依頼がプログラムに寄せられたという実績もある。また、トップリーダー・ディスカッションセッションを契機として、特別研修や新たなグループワークも立ち上がってきた。例えば、大垣共立銀行に対してプログラム学生が企画を提案するプロジェクトでは、広報戦略・営業戦略・地元経済活性化をテーマとした若手幹部候補行員のプロジェクトチームとのディベートが実現した。名古屋市を活性化するための学生からの提言に対しては、市が1500万円の調査費をつけた。これ以外にも、IBM基礎研究所において若手社員との交流会が実現している。

(2)**企業と博士の交流**：名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターとの共同で、年1回、60社(平成29年度)ほどの企業の担当者を集め、プログラム学生を含む博士人材と企業のマッチングを行っている。また、本プログラム学生が発案し、全国のリーディング・プログラムから58名の女子学生を集めた「全国リーディング合同女子会」(平成28年3月実施)には、12名の社会人が出席をし、交流を深めるとともに、女性博士人材のキャリアパスについての議論が活発に行われた。

(3)**海外組織**：英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルとは、本プログラム発足にあたり連携協定を結び、英語研修はもとより、トランスファラブル・スキル研修の紹介、駐日英国大使の2回にわたる講演会の実現、ブリティッシュ・カウンシル駐日代表へのプログラム国際アドバイザーボード委員の委嘱、英国 Vitae (英国の研究者キャリア支援組織) への紹介など、多岐にわたり連携を深めている。同じく英国の組織では、エジンバラ大学、特にその IAD (Institute for Academic Development) とは、これまで緊密な連携をとってきた。IAD の Turner 所長には、名古屋大学で3回のトランスファラブル・スキル研修を依頼、さらにトレーナーズ・トレーニングとして教員への訓練も実現し、結果として本研修を内製化することが可能となった。さらに、本プログラムを契機として名古屋大学とエジンバラ大学の間には連携協定が結ばれ、学生の留学や、ジョイント・ディグリー・プログラムへと結実している。米国では、これまでノースカロライナ・アンビション・キャンプを行うに当たりノースカロライナ州立大学 GTI (Global Training Initiative) に、多大な協力をいただいている。こちらも本プログラムを契機として、大学間の連携協定が結ばれた。